

# 大沢町・越ヶ谷町地区の「新編武蔵風土記稿」

加藤幸一

雄山閣発行の「新編武蔵風土記稿」をもとに作成した。

( ) 内の文字及び※の文章は、加藤が加筆した。

## ○越ヶ谷宿

こしがやじゅく

※越ヶ谷領に属する。

越ヶ谷宿は日光及び奥州街道宿駅の一つにして、古は騎西庄に属し、越ヶ谷町と呼しが、延享四年（一七四七）より宿と唱ふ、江戸より行程六里、古は下への（載）する大沢町は自ら一村なりしが、其後、年代詳ならず当宿（越ヶ谷宿）に属し、越ヶ谷町・大沢町の二ヶ所を合せて一宿とすと云、次立（継立）の人馬は五十人、五十匹の定数をもて、互に十日を限り（十日交代で）、草加・粕壁の二宿、其（人馬の）余、吉川町及鳩ヶ谷・大門・岩槻の宿々へも次立をなす、依て（継立を取り扱っているので）、元禄八年（一六九五）四月、酒井河内守検地せし時より、一町一反六畝二十歩の地子（地代）を免除せらる、宿の四隣、東より巽（南東）は瓦曽根村、南は七左衛門村、坤（南西）は谷中村、西は四町野村、北は花田村、良（北東）は小林村なり、東西二十町半、南北九町余、用水は須賀村溜井を引沃げり、家数五百四十九、多くは街道の左右に連住す、当所、文禄の頃より毎月二七日（二日、七日、十二日、十七日、二十二日、二十七日の六齋市）をもて市をなし、時用（自用の意か）のものを交易す、（江戸）御打入（天正十八年の家康関東入国）の後より御料所にて、今も然り、新田は享保十七年（一七三二）・宝暦十一年（一七六二）の二度に検（検地）して高入とす、

※越ヶ谷宿は、「越ヶ谷村」、「越ヶ谷町」、最後に「越ヶ谷宿」と推移したと思われる。

越ヶ谷村の時、大沢は「大沢町」と既に呼ばれていた（正保の「武蔵田園簿」）。

高札場 乾（北西）の方、往還（街道）の内、境板橋（現・大沢橋）の側（南西のたもと）にあり、

小名 本町 中町 新町

元荒川 宿の乾、大沢町の界を流る、川幅三十四間余、往還（日光海道）に橋を架す、境板橋と云、又此川及び瓦曽根溜井にも水除の堤を設く

※境板橋・・・境とは、かつては下総国（大沢町側）と武蔵国（越ヶ谷町側）との国境であつ

たことから名付けられたと思われる。現在の大沢橋（大橋）である。

出羽堀 宿の乾(北西)の方を流る、悪水堀を云、相伝ふ、会田出羽介正之当所に住し、掘(堀)

開きしをもてかく唱ふと、会田氏のことは後谷村旧家富右衛門の条見るべし、

※会田出羽介正之は、会田出羽家筋ではない。四町野村の名主、会田太郎兵衛家筋の先

祖であろうか(山崎善司氏の推定)。

※「後谷村旧家富右衛門の条」については、この「越ヶ谷宿」の項の最後に紹介する。

塚 田間にあり、わづかの塚にて、嘉吉二年(一四四二)三月と彫たる碑ありしが、近きころ、

うしなひしと云、

神明市神社 嘉吉二年(一四四二)の勧請にて、正徳年中(一六四四〜四七)、(他の地から)今

の橋台と云地へ移せりと云、神主須藤撰津なり、

○八幡社 文和二年(一二五三)と彫し青石(青石塔婆、板碑)を、神体となせり、

天嶽寺 浄土宗、京都知恩院末、至登山遍照院と号す、寺伝に云開山専阿源照は、太田道灌の伯父

なりと、依て太田下野守当寺を建立せる由をの(載)す、されど源照は道灌の伯父なること、

外に 抛 なければ疑ふべし、其後、四世玄澄といへる僧住職たりし時、天正十九年(一

五九二)十一月、東照宮(東照神君家康)当宿へ成せられ、寺領十五石を附らる、台徳院

殿(秀忠)・大猷院殿(家光)御狛のついで、当寺に來らせ賜ひ、御前にて法問(仏教につ

いての問答)を命ぜられ、又(家康より)上意ありて江戸にめされ、登城せしことありしと

いふ、本尊は阿弥陀を安置なせり、

※天正十九年十一月の家康の福德印が押された朱印状(三石)が「鼻紙朱印状」

として浄山寺に保管されている。この年に、家康は市内の越ヶ谷宿そばの

天嶽寺にも立ち寄ったが、他に浄山寺にも浄山寺の言い伝え通りに立ち寄

り、この時に家康から直接朱印状を渡されたであろうことがわかる。

表門 中門 楼上に釈迦を安ず 鐘楼 元文元年(一七三六)十一月再鑄の鐘

をか(懸)けり、

熊野社 観音堂 地藏堂二宇

塔頭 雲光院 法久院 遍照院 善樹院 松樹院

※天嶽寺には五つの塔頭があった由緒ある寺院とわかる。

○円蔵院 新義真言宗、瓦曽根村照蓮院門徒、福寿山と号す、本尊不動は恵心(僧都)

の作にて、長二尺三寸の立像を安せり(安置する)、

天神社

※新道の大師堂（弘法大師空海と興行大師覺鑊の両大師が祀られる）あたりにあった。現在も大師堂に円藏院の本尊である不動明王と二童子が納められた厨子が中央に置かれている。その左右両側に、弘法大師と興行大師が安置されている。現在も照蓮院の管轄下である。

なお、この大師堂の西側隣りには戦前まで会田出羽家（現在の関根家及びその両側）があった。

○東西院（二東正院）の誤り）当山修験、江戸・青山鳳閣寺の配下、医王山と号す、本尊薬師の坐像長一尺三寸、恵心（僧都）の作といふ、  
稲荷社

※越ヶ谷二丁目十一番地の南東角地は、現在は栃木銀行の駐車場となつて  
いるが、かつてはここに薬師堂があった。この薬師堂あたりが江戸時代の

東正寺（本尊は薬師如来）の跡地である。

○澄海寺 羽黒行人派修験、（西新井村にある）普門院配下、本尊大日（如来）を安ず（安置する）、  
天神社  
稲荷社

※新町の八幡神社あたりにあったという山伏の寺院である。八幡神社は、昔は反対側（西の方）を向いていたとの言い伝えがある。つまり、西側に沿っている水路が敷かれている道がかつての古道で、日光街道ができる以前からあった古道なのかもしれない。

○観音堂 観音の坐像長一尺一寸八分、伝教大師（最澄）の作なり、天嶽寺持、  
※観音堂は、観音横丁（音和町）にあり、現在も天嶽寺の管理下にある。

御守殿蹟  
宿の亥の方にあり、慶長の頃（二五九六〜一六一四）よりの御殿なりしが、  
明暦三年（一六五七）江戸の回祿（火事）にて、御城の内も焼失ありしより、御仮殿に  
かの地（江戸城内）へ移させられ、其蹟御林となり、当所の民小林（「小杉」の誤り）藤  
左衛門・浜野藤蔵二人御林守たりしが、元禄八年（一六九五）検地の時、貢税の地とな  
り、御膳所の跡のみ御林を存せり、今に御守殿蹟又権現林ともいへり、

※現在の「御殿町」の名称は、越ヶ谷御殿がそこにあったことに由来する。

越ヶ谷御殿は明暦の大火で焼失した江戸城の仮の御殿として移築された

という。越ヶ谷御殿跡の御林守（御殿番）の一人が小杉藤左衛門であるが、

その墓石が今も天嶽寺の無縁仏群の墓地の中（最後列北西隅）にある。

（参考）「後谷村旧家富右衛門の条」について―「埼玉郡之七 八條領 後谷村」より―

舊家富右衛門 代々名主を勤む、氏を會田と稱す、元越ヶ谷に住し、其後當所に移れり

と云、家作は二百年以上の者にて、柱の削り小屋組のさま、今の制作と替（変）れり、先

祖の帯せしと云短刀及手鎗・乗鞍・轡等あり、又菊桐（の紋）を附し、印籠を蔵す、梨子

地紋所のさま、古色にて緒しめば金の無垢なり、太閤秀吉より先祖へ與へしものなるべ

しなどいへど、其正きことは知らず、會田系圖を見るに、會田三郎左衛門正重は、出羽介

正兼が（の）孫源太郎正富が（の）子なり、當國（武蔵国）鉢形の城主北條安房守氏邦が麾下

に属し、越ヶ谷の地に住す、其子若狭正方は太田十郎氏房に従て討死す、其子（長男）

若狭正忠・二男出羽正之と云、正之も越ヶ谷に住すとあり、今越ヶ谷宿に（その）會田氏

の子孫なし、衰微して江戸に移れりと云、此富右衛門が（の）家は、彼越ヶ谷に住せし會

田氏が（の）支族なりしや、系圖は所持せざれども、其つまびらかなることをしらず、

※以上より、出羽介正兼↓孫の源太郎正富↓三郎左衛門正重（越ヶ谷住）↓若狭正方

↓長男若狭正忠・二男出羽正之（正之は越ヶ谷住）と続いた（山崎善司説）。

## ○大沢町

附 持添新田

※越ヶ谷領に属する。

※持添新田とは、「反高はあるが新田村居の農民が不在の土地」

（秋葉一男氏『見沼の歴史』の見解より）

※大沢町は、本来は新方領に属する地域であったが、いつの頃か元荒川の対岸の越ヶ谷

領に編入されている。

前宿（越ヶ谷宿）に続いて元荒川の南（「北」の誤り）の方をいふ、四隣・丁数自ら前宿と異な

れば別に此にの（載）す、東は花田村、西は大房村、北は弥十郎・増林の二村なり、東西十五町

余、南北九町許、家数四百八十一、往来の左右に家並をなせり、検地は元禄の前、元和五年（一

六一九）、寛永六年（一六二九）の二度、伊奈半十郎（忠治）が糺せし（改め直した）事を伝ふ、是

は未だ前宿に属せざる前の事なりや 詳ならず、此余、寛延三年（一七五〇）神尾若狭守・曲淵

豊後守、安永三年（一七七四）伊奈半左衛門（忠順）等糾せし（改め直した）新田あり、当所の持添とす、

小名 上宿 中宿 下宿 高畑 鷺後

※大沢の「鷺後」は、現在は「さぎしろ」と呼ばれているが、江戸時代は「さぎうしろ」と呼ばれ、大吉村の「鷺代」（さぎしろ）とは区別されて呼ばれていたのであろう。

元荒川 町の西南を流る、

○池七ヶ所 何れも小池にて、浅間池・内池・外池・八郎兵衛池・蜷池・観音坊池・嘉石衛門池といへり、

※これらの池は、かつて元荒川が流れていた押堀（おっぼり）の跡と思われる（秦野秀明氏）。  
塚三ヶ所 妙全塚・乗馬塚・古塚といふ、  
香取社 町の鎮守とす、

別当（別当寺） 光明院 新義真言宗 末田村金剛院末、香取山と号せり、 本尊 十一面観音を安ず（安置する）、

薬師堂

※光明院の南側一帯は地元では「どのめ」と呼ばれている。「堂の前」がなまつたもので、堂とは光明院にあつた薬師堂をさすという（秦野秀明氏）。

○稻荷社 真蔵院持、下（浅間社・金毘羅社）同じ、  
○浅間社

※浅間社は、現在の北越谷二―二―一八のドルチェ北越谷の地にあつた。富士塚の上に南向きの本殿があつて、西側に浅間池（道路を隔てた現在のスーパーマーケットの駐車場あたり）があり、南側に参道があつた。現在の天理教大沢分教会の北側道路は、浅間社の参道入口（北越谷一―一―二と二―一―一四の間）に続く浅間道と呼ばれた。

○金毘羅社

照光院 新義真言宗 三之宮村一乗院末、梅花山と号す、本尊不動を安置せり、  
鐘楼 安永八年（一七七九）六月鑄造の鐘をか（懸）く

天神社 本地仏十一面観音を安ず（安置する）、土人（土着の人）鉈作の尊像と云、  
※江戸時代に、現在の太沢三―一―三五の「そば水角屋」の南西角地の日光街道

に「天神前橋」と呼ばれた橋が架かっていて、その照光院側に天神社があった。

みょうぎはちまんこうしゃ  
妙義八幡合社

いなりしゃ

稲荷社

ひかわしや

氷川社

えんまじやう

閻魔堂

こうふくじ

○弘福寺

こうふくいん

〔弘福院〕の誤り

同宗

（新義真言宗、

すえだむら  
末田村金剛院末、

だいたくさんかんのんじ

大沢山観音寺と号す、本尊弥陀を安置せり、

（以上の本文句読点に誤りあり）

稲荷社

みつみねしや

三峯社

べんてんしや

弁天社

しんぞういん

○真藏院

ほんざんしゆげん

本山修験、葛飾郡幸手不動院配下、

本尊不動を安ず（安置する）、

※真藏院は、大沢の香取神社の本殿東方の足立越谷線道路及びその道路の東側

一帯にあつた（秦野秀明氏）。